

療護施設自治会全国ネットワーク設立 準備会 ニュース No.1

みなさん、はじめまして！！。今年^{ことし}の夏^{なつ}はどこへ行ってしまったのでしょうか？。
暑中見舞い・残暑見舞い^{しよちゅうみま ざんしよ みま か ためら}を書くことを躊躇^{なつ はや お}ってしまうような“夏”が早くも終わりを向かえ、台風^{む たいふう}の季節^{ませつ}になろうとしています。北海道^{ほっかいどう}の地震^{じしん}や九州^{きゅうしゅう}の集中豪雨^{しゅうちゅうごうう}などで、直接・間接的な被害^{ちよくせつ かんせつてき ひがい}を受けられた方が数^う少なくない^{かた かすく おも}と思います。心^{こころ}よりお見舞い^{みま}申し上げます。

わたしたち^{わたしたち} さくねん^{さくねん} がつ^{がつ} ひのりょうごえん^{ひのりょうごえん} きよせりょうごえん^{きよせりょうごえん} たまこうせいえん^{たまこうせいえん} りょうごせつ^{りょうごせつ} どう
さて私達は昨年5月、日野療護園・清瀬療護園・多摩更生園の3療護施設に、東
京くるめ園^{きょう えん きゅうごせつ}（救護施設）・八王子自立ホーム^{はちおうじ じりつ}（授産施設）の5団体の自治会が結集
して、『施設共闘東京ネットワーク』を発足^{しせつきょうとうとうきょう}させて1年間活動^{ほっそく}をしてきました。

なか わたしたち^{なか わたしたち} うんどう^{うんどう} ぜんこく^{ぜんこく} なかま^{なかま} とも^{とも} おこな
その中で私達は、「このような運動を、できるならば全国の仲間と共に行いたい」
と^{かんが}考え、『東京ネット』を中心^{とうきょう}に準備^{ちゅうしん}を始めました。

きんねんぜんこくてき^{きんねんぜんこくてき} み^み さいたくふくし^{さいたくふくし} じゅうじつ^{じゅうじつ} はんめん^{はんめん} わたしたち^{わたしたち} や^や え
近年全国的に見ても【在宅福祉】の充実がすすめられる反面、私達が“止むを得
ず”生活^{せいかつ}の場^ばとしている『施設』においては、20年前^{しせつ}とあまり変わっていないと
い^い言^{げんじょう}うのが現状です。

げんざい^{げんざい} しせつ^{しせつ} にか^{にか} きそく^{きそく} もと^{もと} かんり^{かんり} しょくいんはいちすう^{しょくいんはいちすう} きょしつくう^{きょしつくう}
現在ある施設のほとんどが日課や規則の下に“管理”され、職員配置数や居室空
間の制限など、『基本的な生活』はおろか【プライバシーや人権の保障】といった
めん^{めん} さいたく^{さいたく} いか^{いか} じょうたい^{じょうたい} いま^{いま} つづ^{つづ} い^い げんじょう^{げんじょう} なん
面では“在宅以下”の状態が未だに続いていると言^いうのが現状です。これでは「何
のため^{とお}に遠く離れた施設に入らなければならないのか。」と言^いった疑問^{ぎもん}を持つたと
しても不思議^{ふしぎ}ではないでしょう。

私達は『施設』を【真に生活の場】としていくために、自らの声を個々に園や園長にぶつけるだけでなく、全国の進んだ取り組みや貴重な経験などを交流し実践に生かすことが、自分達の施設生活を豊かにするだけでなく、多くの仲間達の生活を豊かにし、ひいては福祉の全体的な向上のために役立つと考え、今回『療護施設自治会全国ネットワーク』準備会を発足させました。

準備会事務局では構成メンバーが一堂に会するのが困難だと考え、機関誌活動に重点を置こうと考えています。当面年4回の発行を予定していますが、みなさんからの投稿があればこの回数に拘るものではありません。

私達の主旨をご理解の上、一つでも多くの施設自治会、一人でも多くの方が『全国ネット』に加盟されることを強く望むものです。

1993年9月20日

『療護施設自治会全国ネットワーク』設立準備会 (文責・小田一石)

ぼしゆう 募集

- * 各地の療護施設自治会の活動報告
- * 各地の施設利用者や自治会への質問・提案など
- * 自治会全国ネットに対する意見→今後どのような活動を進めるべきか
- * この機関誌への意見・感想など
- * 機関誌に載せるイラスト
- * 全国療護施設生活調査委員会についての意見・質問など
- * 施設利用者以外の方の提言 (待ってます!)
- ★ その他何でも結構です。投稿してください。こちらから取材に伺うことも考えています。ご希望の方は連絡を。宛先は最後のページにあります。

自治会連帯——何のために

しまね けんりつこうせい せいりょうりょう
島根県立厚生センター一晴雲寮

きむら えいじ
木村 穎二

〈全国には療護施設がたくさんあるはず。よその施設ではこういう問題をどうやって解決したのか。それとも、どうにもならない状況の中で、同じように悩み、苦しみつづけているのだろうか〉

これは、療護施設で生活する者なら、長い間に一度は必ずとられる思いといつてよいでしょう。私の場合などは、そうした思いがたとえば施設の外で初めて会った人から、あなたのいる療護施設というのはどういう所ですか、毎日の生活はどんなふうですかと問われたときに、どう説明すべきかと、しばし戸惑うときのあの思いと微妙に重なったりして、いつそう深刻なものとなることがしばしばありました。

昨年さくねんの秋あき、東京とうきょうの日野療護園自治会ひのりょうごえんじちかいから全国ぜんこくに向けて発送はつそうされたアンケート調査用紙ちようさうしは、かなり分厚いものでした。にもかかわらず、これと取り組んだ回答者かいとうしやは138名もいたとのことことです。1カ所に2通ずつ送られたことや調査項目ちようさくうもくの分量りようを考えると、この人数にんずう自体じたいを云々うんぬんするのは要注意ようちゆういでしょうが、明らかに刮目あきかつもくしているのは、施設しせつの数かずだと思います。全国ぜんこく231カ所のうちの83。回答率かいとうりつ36%というこの数字すうじは、この種しゆの調査ちようさにまつわる対外的な接触たいがいてきせつしよくに敏感びんかんであるはずの施設管理しせつかんりの一般的な傾向いっばんてきけいこうからして、それをかいくぐったもの、あるいは乗り越えたもののこと見れば、私わたしには予想外よそうがい、〈かなり大きい〉ものかんに感じられました。

全国ぜんこくから東京とうきょうへ寄せられた声こゑの数々かずかず——「第一次集計報告だいじしゅうけいほうこく」をじっくり読ませてもらいました。質問しつもんに対する回答内容かいとうないようについてはここで触れるわけにはいきませんが、報告書ほうこくしょの最後さいごのところに載っていた自由意見じゆういけん・メッセージ集しゅうには本当に考えかんがさせられました。B5判ばんにして10ページ分ぶんにぎっしりの内容ないようは、驚かされた

り、うなずいたり、あるいは首をかしげるところもあつたりで、いろいろでしたが、あれらは総じて、単に記載されているのではなく、指に力をこめて<刻みつけられたもの>の感がありました。

ところで、今回初めて行われた全国調査ですが、それに関連して、東京ネットワークにおいて全国自治会ネットワークや生活調査委員会の話がもちあがつたということは、多くの方がご存じのこととおもいます。

調査委のほうは、先のアンケート調査結果に今後何らかの補充を加えたうえで細かく分析し、報告書にまとめるという大変な作業が待っています。一方、自治会ネットはその準備会がスタートしたようですが、いずれにおいても東京の事務局はナンギなことです。東京から遠くはなれた島根にいてどんな参加協力ができるだろうかと考えた私なども、内心は東京まかせの人まかせ、軽い気持ちから、「松江の地にいて出来る協力はいたします」と返事をしておいたところ、大変なお鉢が回ってきました。事務局からの要請に対してためらいはしても固辞できなかった最大の理由が、今私のいる施設がそのことを阻む状態に全くないという特殊な(?)条件にあることも“不運”だったのですが……。

さて、調査委の役割もさることながら、施設生活の改善という大きな課題に関連して重要なのは、やはり自治会の連帯だろうとおもいます。ネットワーク準備会の事務局は機関誌の発行を考えておられて、この拙文もその隅っこにのるのさうですが、とにかく今後全国からいろいろな知識や経験、提案などが寄せられ、それらが事務局において整理されて、また全国へと放射状に返されていく——そうした繰り返しのなかから、それぞれの施設が直面している深刻な問題の解決のための手掛りをさぐってゆく……。いづこも同じ問題を抱えているのなら、まあ仕方がないとあきらめてしまうのではなくて、どこかにその難問をクリアーした施設はないかとアンテナをまわしてみる——自治会ネットの将来方向はそのあたりではないかとおもっています。

そして、連帯の意義をより高めるためには、当然のことながらより多くの自治

会の参加が欠かせません。現在のところ、アンケート調査の回答数までには至っていないようですが、調査によれば自治会の数は7割。可能性はまだこれからと期待したいものです。

最後は蛇足ですが、「療護施設職員ハンドブック」という本があります（どこ
の施設にも）。職員のためのものですからちよつとナンですが、なかにはオモシ
ロイことものついています。たとえば「介護者の心得」として「入所者から言葉の
あそびや議論をしかけられても決して応じてはいけません。万一議論になったと
きは負ける方がよろしい」。まさかと思われる向きは「一寸拝借」してみてください
さい。ダメと言われたらどうするか。松江からも“発信事項”がいくつかありま
す。

(全国療護施設生活調査委員会代表；晴雲寮自治会長)

▽△▽△▽全国療護施設生活調査委員会事務局から▽△▽△▽

(1) 1992年の秋に療護施設利用者に対して実施した「施設生活と環境につ
いてのアンケート」とほぼ同じ内容のものを、今年の7月、療護施設長対象で実
施しました。単純集計をまとめた報告集が8月にできあがっています。『全国ネ
ット』参加希望者の皆様には1部ずつお送りしますので、読んだ感想、今後の分
析方法や活用法についての意見など、調査委員会宛にどしどしお寄せください。

(2) 昨秋の利用者対象アンケートの補充調査をまだ続けています。協力してい
ただける方はご一報ください。回答のなかった施設のリストとアンケート用紙を
お送りします。『全国ネット』の参加者を増やすためにも、お知り合いの療護施
設利用者に声をかけてみてください。

(調査委員会事務局の住所・電話番号は、全国ネット事務局と同じです。)

ぜんりようきよう 全療協について知ろう (その1)

1993年7月現在、全国に242カ所ある療護施設は、すべて全国社会福祉協議会・全国身体障害者施設協議会・全療協部会に加入しています。全療協は年に一度全国大会を開催しており、そこでは療護施設長・職員が千人規模で集まって、施設問題について広く研究・協議しているとのこと。ただし、この大会には療護施設利用者の参加が実質的に認められていません。これまで、全障連施設小委員会が、全療協の全国役員会に対し、利用者の参加を認めるよう、繰り返し申し入れをしています。けれども、いまだに前向きな回答が得られていないのが現状です。

しかし、今年の春、全国療護施設生活調査委員会から全療協会長（京都府の療護施設「こひつじの苑」の施設長さん）に委員としての参加を要請したところ、全社協の丸山障害福祉部長を通して、《委員になることはできないが、全療協として調査委員会の活動に協力はする》との返事をもらいました。また、丸山部長の言葉によれば、全療協は利用者の全国大会への参加を認めていないわけではなく、利用者の声を施設長サイドに届かせるためには自治会の育成に努めているとのこと。《育成》という言葉に抵抗を感じる人もあるかもしれませんが、少なくとも全療協は利用者が自治会をつくって活動をすることに、援助はしても反対はしないと表明しているわけですから、『全国ネット』としても、今後、全療協と話し合いをもち、施設利用者の当然の権利としての自治会活動の保障を求めていくべきではないでしょうか。

施設はもともと権利侵害を起こしやすい構造をもっていると考えられます。施設内の権利侵害をなくすためには、実際に起こってしまった侵害を告発するだけでなく、権利侵害を予防するためのシステムをつくっていく必要があると思いま

す。(その意味で、『障害児・者の人権擁護ネットワーク』による9・19集会
=障害児・者の権利をいかに作りだすか! =には注目!!! —『ニュース』第
2号でこの集会について報告したいと思っています。)療護施設利用者と全療協
とのつきあい方も、こうした見地から、新しい方向をみつけていけないものか、
『全国ネット』として、これから考えていきたいと思ひます。

『全国ネット』参加希望者の皆様には、今回、去年の全療協大会シンポジウム
の記録『療護施設制度化20周年を迎えて』を同封します。感想をお寄せくださ
い。また、全療協についての質問も送ってください。

(文責 徳木とも子)

編集後記

一日も早くいいものを出さねば!!と頑張つてはみたものの、やっぱり遅れに遅
れて9月の声を聞くころになってしまいました。早くも93年度分の購読料をカン
パしていただいている方々には、誠に申し訳なく思ひます。勝手ながら既にい
ただいている分については、93年度分会費として領収させていただきます。ご了
承下さい。

申し遅れましたが、今度『全国ネット』の機関誌と会計をやることになりました
東京都清瀬療護園の小田 一石です。よろしくお願ひします。

何分不慣れな分野なのでいろいろと不都合な点があると思ひますが、一生懸命や
りたいと思ひますので応援して下さい。

今準備会事務局では、運転資金がほとんどと言つていいほどありません。まだ始
まったばかりなので仕方がないことですが、『かけ声だけに終わるかそうでないか』
は、みなさんのご協力にかかっています。

みなさんのご協力を心よりお待ちしております。

カンパ・会費は、郵便振替口座（東京-8-715838『療護施設自治会全国ネットワーク』）宛までお振り込みいただくか、切手・現金書留などで事務局か、下記の問い合わせ先までお送りいただいても構いません。

機関誌の問い合わせやお叱り、投稿先もこの住所で受けつけておりますので、みなさんどしどしお寄せ下さい。

尚パソコン通信をご利用されておられる方は、NIFTY-serve I・D:NCC00347 徳木 とも子 宛まで電子メールを送って下さい。PC-VANについても現在準備中です。次号までには開設できると思います。ご利用下さい。

機関誌・会計についてのお問い合わせ先

〒204 東京都清瀬市竹丘3-1-72 清瀬療護園内 小田 一石まで

Tel. 0424-93-3235 (代表) Fax. 0424-93-3234

療護施設自治会全国ネットワーク設立準備会ニュース No.1

発行日：1993年9月20日 年間購読料：1000円

発行者：『療護施設自治会全国ネットワーク』設立準備会事務局

連絡先：〒191 東京都日野市落川245-1 東京都日野療護園 入居者自治会内

Tel. 0425-93-2421 (代表) Fax. 0425-93-0075

郵便振替：東京8-715838『療護施設自治会全国ネットワーク』